

# 大学における校風形成要素の抽出と可視化の試み

独自の大学価値確認と創出にむけて

大川一毅\*・大野賢一\*\*・鳶田敏行\*\*\*

## 1. はじめに

### (1) 本研究の前に(大学の個性や魅力を引き出す大学評価ができないか)

今日の日本にあって「大学評価」はすでに定着している。法令義務化された第三者評価はすべての大学で行われ、各大学では内部質保証体制の構築が進み、ディプロマポリシーやカリキュラムポリシーに則した学修成果の検証も行われている。2022年現在において、わが国大学で普及定着した大学機関別認証評価や国公立大学法人評価、あるいはそれらの基礎となる大学単位での自己評価、外部評価は、日本の大学教育の変革を促進し、さらに質保証検証を定着させた。のみならず、研究業績や管理運営に関して、達成指標をふまえたPDCAサイクルを機能させ、それぞれ大学の改善充実に貢献している。こうした成果をもたらした現行の大学評価を否定するのではなく、大学評価が普及定着した現在だからこそ、新たな形として「自学の個性や魅力を確認・創出を図る」大学評価ができないかと考えた。

これら現行の大学評価が導入される当時に趣旨喧伝されたことを回顧するならば、大学の個性伸張をずいぶんと強調していた。しかし大学評価制度の導入から約20年<sup>1)</sup>を経て、大学個性の伸張に関して、大学評価は果たしてどれだけ寄与してきたかと懸念する。現在の大学を取り巻く厳しい状況の中で、大学評価にあっては、社会や時代状況の変化に即し、従来と異なる価値観や成果視点を創出することが必要であろう。こうした観点から、大学それぞれが備える特性について、これを自覚的に向上させながら、大学の価値を高めていく「活性化評価」の工夫とそのための指標設定の必要性を意識するようになった。

### (2) 大学校風への着眼

本稿執筆者3名は、これまで科学研究費助成事業として「自校教育研究」、「大学による卒業生サービス研究」、「校友会・同窓会研究」、「保護者を主たる構成員とする大学教育後援会研

---

\* 岩手大学評価室

\*\* 鳥取大学学長室

\*\*\* 茨城大学全学教育機構

1) わが国「大学評価」について、その導入実施からおよそ20年を経過して、これまでの成果や課題についての総括的研究が報告されるようになった。たとえば日本高等教育学会では「大学評価 その後の20年」として研究論文を集めた学術誌を発行している(日本高等教育学会編「高等教育研究 第23集, 2020年7月, 玉川大学出版部」)

究」等の共同研究にとりくんできた<sup>2)</sup>。これら研究に共通するテーマは、大学活性化に向けた構成員の大学帰属意識向上、大学外部組織の母校・大学支援、並びに各研究成果の大学評価への援用であった。それぞれ研究をふまえ、卒業生や保護者は、大学（母校）校風に関心を持っており、これに関わる事業への参加意欲も高い、という総合的知見を得た。このことから、大学と「親近的ステークホルダー（卒業生・保護者・大学後援者）」との協働事業には、校風の醸成・強化・刷新という目標の設定・共有が有効であること、そしてその取り組みや成果を大学評価の指標に組み込めば互恵的協働のさらなる進歩を促すのではないか、という課題認識につながった。こうして大学の「校風」に着目することになった。

どの大学にも校風がある。学生にとってポジティブ（建設的・積極的）に感じられる校風は、大学における諸活動実践の意欲を促進する。学生のこれら経験による満足感の蓄積は大学への帰属意識も高める。さらに、学生に魅力的な校風を感じさせる大学は、志願者にとっても魅力的（進学誘因力）となり、卒業生にとっては誇り（母校支援誘因力）となる。学生の満足度が高い大学は、保護者の喜びにもなる。大学に対する社会からの評価は、こうした校風が影響していることを多くの者が経験的に認識している。このような課題意識にたち、大学校風に着眼する高等教育研究を開始した。

### (3) 校風とは

大学のみならず、あらゆる学校に、それぞれの校風がある。しかし、校風の具体的な実態は多様であり、しかも曖昧である。人により、その学校に対する校風認識が異なることもある。校風は明文化されるものではなく、むしろ主観的な認識にもとづく。そこで今回報告にあたり、本稿での「大学における校風」の考え方を以下におおよそ規定しておきたい。

まず校風とは、その大学独自の雰囲気や気風を言うこととする。校風は「建学の精神」と関わりながらも同一ではない。校風は歴史的伝統、地理的環境などに影響され、大学の様々な構成員によって世代にわたって可塑的に醸成・継承され、時に刷新されることもある。校風は大学をその大学たらしめるアイデンティティーともいえる。

近年、初等中等教育段階の公教育学校でも、児童生徒の充実した教育・学習や学校生活の実現にむけて、学校構成員全体で参画する校風作りが重視されている。大学にあっては日本私立大学協会が加盟大学に対し、「ガバナンス・コード」を定めてこれを遵守した大学の運営を指示しており、ここでは校風を大学それぞれの独自性に関わる重要要素として位置づけている。

### (4) 大学校風研究への取り組み

このように、学校運営における校風の役割が認識されるようになってはいるが、我が国で校風をテーマとした高等教育研究はきわめて少ない。旧制高等学校の校風を扱った歴史的研究や、志願者マーケティングのための民間情報産業による「校風ブランド調査」等の営利事業はある。しかし、校風を大学の今日的課題と結びつけた研究の事例を聞くことはない。大学にお

---

2) これまで本稿研究者らが実施してきた科研費研究は以下のものである。①「大学における自校教育の導入実施と大学評価への活用に関する研究」、課題番号20600002, 基盤研究 (C), 2008年4月～2011年3月, ②「地方大学における「卒業生サービス」の意義と可能性に関する実証的研究」、課題番号23531103, 基盤研究 (C), 2011年4月～2014年3月, ③「大学の持続的発展に資する校友(大学・学生・卒業生)事業の意義と可能性に関する研究」、課題番号15K04340, 基盤研究 (C), 2015年4月～2018年3月, ④「大学教育後援会の事業と成果を指標として実施する大学評価の可能性をめぐる実証的研究」、課題番号19K02855, 基盤研究 (C), 2019年4月～2022年3月

ける校風は、建学の精神や教学理念等とは違って明文化されることもない。これまで大学の校風に関わる研究事例が少ないことの原因には、校風の曖昧さ、実質としての捉えにくさにもあろう。そこで、様々に語られる校風について、その言及を集め、そこから校風に関わる要素（校風形成要素）を抽出し、大学校風といわれるものの輪郭把握を試みることにした。さらに、これを評価項目として分類し、それぞれに具体的指標をたて、大学評価につなげることを考えている。

社会や時代状況の変化に応じ、従来と異なる価値観や成果視点を作り出すことが求められている。大学の価値も新たな側面から認識する成果指標やそれによる評価・検証が必要ではないか。これまで校風を指標として公式化した試みはなかった。ならば大学のそれぞれの価値を確認し、あるいは刷新するための指標として校風を活用できないか。こうして大学校風と大学評価を関わらせた研究に着手した<sup>3)</sup>。本稿はその一環としての途中成果を報告するものである。

## 2. 大学校風形成要素の抽出と類型化の試み

### (1) 校風言及の検索と抽出

大学に関わる者の多くが、大学における校風を何らかの形で認識し、また校風を語る場合も多い。しかし校風の捉え方は多様であり、曖昧である。そこでまずは大学で語られる校風について、おおよその輪郭把握を試みることにした。これにあたっては、大学校風の言及事例を収集し、そこから、校風をいかなる要素とあわせて語っているかをテキスト分析する。ここで抽出した校風とともに語られる事項を「校風形成要素」としてそれぞれの数的多寡を明らかにする。あわせて類似した項目を集約して類型化する。また校風が、大学に関わる誰によって、どう語られているかも調査事例から確認し、大学内外の関係構成員による大学校風の捉え方の傾向を見いだすこととする。

様々な機会で語られる大学校風言及を遺漏なく収集するのは困難である。そこで、ある程度事例収集が容易で、共通の基盤で語られる統一性という観点から、2022年3月現在で設置されている国公立全788大学のホームページを活用した。各大学ホームページの「検索(search)」欄で「校風」と入力して検索すると、もし各大学に関わる校風言及があれば、それを検出することができる。これによって総数543項目の校風言及を確認した（国立大学105項目、公立大学46項目、私立大学392項目）。これら抽出言及から、重複する文書や校風言及とは無関係な項目（たとえば、新入生調査用紙に記載されている回答選択肢など）を検証確認して除き、最終的に471項目の校風言及を抽出した（国立大学83項目、公立大学42項目、私立大学346項目）。

### (2) 抽出した校風言及の整理分類

これら471の校風言及についてテキスト分析<sup>4)</sup>を行い、校風と合わせて語られる語彙を抽出し

3) 本稿は、前掲一連の科研費研究に続くものとして、2022年に新規採択されたJSPS科研費『大学校風』の指標可視化と大学評価への活用に向けた実証的研究』基盤研究(C)、課題番号22K02705、研究代表者：大川一毅、研究分担者：大野賢一、畠田敏行、2022年4月～2025年3月、の一環として報告する。(https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-22K02705/)

4) この分析にあたってはIBM® SPSS Text Analytics for Surveys version 4.0.1を使用している。語彙抽出にあたり「大学」という一般的名詞や、各大学の名称などは頻度の多寡にかかわらず除外した。

た。そのうえで「志向価値・行動規範」、「感情・状況」、「人間関係」、「教育研究」、「歴史・建学理念」、「立地・景観」等のカテゴリー（領域区分）で抽出項目を分類整理した。また471校風に関わる「語り手」を抽出語彙ごとに「学生」、「卒業生」、「学長・学部長・理事長等」、「教（職）員」、「同窓会・後援会会長」、「高校生・志願者」、「大学（大学広報など）」に分別特定した。たとえば「〇大はなにより自由な校風でした」という卒業生の言及があれば、校風とあわせて言及される「自由」という語彙を「校風形成要素」と判断し、これを「志向価値・行動規範」に分類し、その語り手も「卒業生」として特定整理した。

本稿は、こうして大学における校風形成要素の抽出と類型化試行の結果を報告して考察を進め、これをふまえて大学独自の価値（個性や強み）の確認や創出に資する可視的指標策定を試みることにする。

### 3. 抽出した校風形成要素の整理と主要項目に対する考察

#### (1) 校風とあわせて語られる校風形成要素

全国大学ホームページから校風言及を抽出し、出現数の多い語彙（校風形成要素）順に表示したのが表1である。各大学のホームページ形態はそれぞれ異なり、たとえ「検索エンジン」で校風言及が抽出されても、同じ大学サイトから同一言及が重複して抽出される事例もあれば、公開電子ファイル資料の形態により、検索にかからない場合もある。それゆえに今回の試みは厳密な実態調査と言うよりも、あくまで校風形成要素の大略的把握の試みと理解していたきたい。

さて、表1に見るように今回の校風要素抽出で最も多かったのが「自由」という語彙である（116件、出現比率24.6%<sup>5)</sup>）。これに「学生」が続く（52件、11.0%）、さらに「尊重、大切、重要、重視」の語群（48件、10.2%）、「自主、自発、自律」の語群（41件、8.7%）、「育成、育てる、培う」の語群（34件、7.2%）、「創造、作る、生み出す、生む」及び「勉強、学習、学問、まなび、学ぶ」（31件、6.6%）の各語群、「雰囲気」の語（29件、6.2%）、「先生、教員、教授」の語群（28件、5.9%）等が抽出数上位項目である。

#### (2) 校風形成要素の語られ方

これら頻出語彙・語群がどのように校風として語られるか、事例を挙げてみよう<sup>6)</sup>。これによって校風とそれを形成する校風形成要素との関わりが具体的に見えてくる。

##### ①自由

・入学してまず驚いたのは、キャンパスの広さ。そして自転車の多さ。華やかなイメージにもワクワクしました。自由な校風で、たくさんのいろいろな人と知り合えたおかげで視野

5) ここでいう「出現比率」とは各校風形成要素（語彙）の抽出数について、大学ホームページから検索された校風言及471件を母数とした比率でそれぞれ示したものである。

6) これより本稿では各大学のホームページ掲載の言及を引用する。ただし、各引用すべてのURLを記載するには紙幅が許さず、また煩雑となる。そこで、言及事例はすべて公開されていることをふまえ、言及のあったホームページの大学名称を具体的に記載する。これによって引用確認の必要があれば、各大学ホームページの検索欄にキーワードとして「校風」並びに引用文節の一部を用いて入力して閲覧されたい。本稿で具体的な大学名を記載することは、それぞれの大学校風特性や考え方を理解する一助ともなろう。これら大学ホームページは、2022年5月の時点で掲載確認している。

が広がりました。これから入学する人には、いろいろなことに挑戦してほしいですね。  
(国立：千葉大学学生)

- ・何かをやりたいと思ったときに、それを実際に取り組むことが許される自由な校風が魅力です。(私立：武蔵野美術大学学生)
- ・大阪府立大学の良さは自由な校風で自分の興味や学習意欲次第でドンドン学びを深められるところにあると思います。(公立：大阪府立大学卒業生)
- ・受験勉強に明け暮れた高校時代と一転した自由な校風、まさに東西古今の文化のうしほ。物事には決まった回答はなく、自分でいか様にも切り開いていける！政経は混沌たる人生の大海原の始まりでした。(私立：早稲田大学卒業生)
- ・皆さんには本学の自由闊達な校風を一層発展させてくれることを願っています。(国立：

表1 大学ホームページから抽出した校風形成要素（全471件）

順位	校風形成要素（語彙）	抽出数	出現比率	類型
	校風	471	100%	
1	自由	116	24.6%	志向価値・行動規範
2	学生	52	11.0%	人間関係
3	尊重, 大切, 重要, 重視	48	10.2%	志向価値・行動規範
4	自主, 自発, 自律	41	8.7%	志向価値・行動規範
5	育成, 育てる, 培う	34	7.2%	教育研究
6	創造, 作る, 生み出す, 生む	31	6.6%	志向価値・行動規範
6	勉強, 学習, 学問, まなび, 学ぶ	31	6.6%	教育研究
8	雰囲気	29	6.2%	感情・状況
9	先生, 教員, 教授	28	5.9%	人間関係
10	活気, 元気, 活発, 躍動, 盛ん, 賑やか	26	5.5%	感情・状況
10	学風, 気風, 美風, 風土	26	5.5%	歴史・建学理念
10	個性, ひとりひとり, ユニーク	26	5.5%	志向価値・行動規範
10	女性, 女子	26	5.5%	人間関係
10	真摯, 誠実, 真面目, 地道, 実直	26	5.5%	志向価値・行動規範
15	家庭的, アットホーム	25	5.3%	感情・状況
16	豊か, 満ち溢れる	23	4.9%	感情・状況
17	教育, 教育内容, おしえ, 指導	21	4.5%	教育研究
17	立地, 地域, 街	21	4.5%	立地・景観
17	友人, 仲間, 同志, 先輩後輩, 交友関係	21	4.5%	人間関係
20	建学, 建学者, 創設者	20	4.2%	歴史・建学理念
21	開放的, 枠を超えた	19	4.0%	感情・状況
22	建物, 校舎, キャンパス, 光景	18	3.8%	立地・景観
22	のんびり, 穏やか, 平穏, 落ち着き	18	3.8%	感情・状況
24	独自, 独特, 独創性	17	3.6%	志向価値・行動規範
24	教育理念, 校訓, モットー	17	3.6%	歴史・建学理念
24	国際性, グローバル, 世界, 異文化	17	3.6%	志向価値・行動規範
24	研究	17	3.6%	教育研究
28	あたたかい, ぬくもり	16	3.4%	感情・状況
29	維持, 継承	15	3.2%	志向価値・行動規範
29	親身, 距離が近い, 仲が良い	15	3.2%	感情・状況
31	先進性, 先頭, 先駆け, リード, 進取	14	3.0%	志向価値・行動規範
31	明るい	14	3.0%	感情・状況
31	支援, サポート, 支える, 世話	14	3.0%	教育研究
34	質実剛健	13	2.8%	志向価値・行動規範
34	のびのび, 伸びやか, おおらか	13	2.8%	感情・状況
36	気品, 上品	12	2.5%	志向価値・行動規範
36	ダイバーシティー, 多様性	12	2.5%	志向価値・行動規範

小樽商科大学学長)

- ・自由に明るく、地域との交流を深める中で実践的に学ぶことが本学の校風です。多彩な教授陣のもと、大いに学び、大いに学生生活を楽しむことを期待しています。(公立：静岡文化芸術大学学長)
- ・桐朋の個性を育てる教育と自由な校風は、多くの素晴らしい音楽家を輩出する鍵となっています。(私立：桐朋学園大学管弦楽専攻教員)

これらのように、校風構成要素として最頻出(116件)する自由という言葉について、学生は好きなことに専心できる喜びや充実感を語る。卒業生もそれぞれの社会生活経験と照らしながら、興味関心あることに熱中できた学生時代の満足感や達成感を回顧する。学長や学部長は、学問の自由とも関わらせながら、大学での主体的活動や大学の使命継承の期待を学生や志願者に語る場合が多い。

しかし、自由という校風についてこのような言及もある。

- ・大商大は、自由な校風だと思います。だからこそ、自分を持っておかないといけない所だと思います。(私立：大阪商業大学学生)
- ・自由な校風でしたので、「主体的に動かないと」といった印象がありましたね。でも、目標を見つけることが出来れば、そこに向かっていける環境だったとも思います。(私立：立命館大学卒業生)

校風要素として最も多く語られる自由は、大学とその校風を象徴する重要な指標である。しかし、自由の校風は放任につながる懸念もはらむ。また、多数の大学が自由の校風を標榜しているならばそれは自由という名の画一的な没個性になりかねない。大学にとって重要なのは、なんら拘束のない無干渉的環境を学生や教員に提供するのではなく、自由という校風の中で「教育・研究・学生支援・課外活動支援をどう具体化するか」、である。はたして大学は自由という環境(校風)の中で大学構成員に何を提供することができるのか。そこに「大学の特色」が出ることになる。それは大学評価での重要視点にもなろう。大学が自由という校風を掲げるならば、むしろ大学の個性が問われることになる。

## ②学生

大学の校風が、学生という言葉とあわせて語られる事例も多い(52件)。このことは、大学校風が学生という存在と密接に関わっている証左ともいえよう。たとえば以下の様に語られる。

- ・この大学は学生同士が協力しあう校風が息づいているのも魅力です。(私立：京都橘大学学生)
- ・玉川大学には一人ひとりの学生を見て、対応してくれる校風がありますね。(私立：玉川大学卒業生)
- ・当時から学生に優しい面倒見のいい校風でしたが、学部が新設され素晴らしい大学になったと思います。(私立：崇城大学卒業生)
- ・共通の目標のもと、友人たちと切磋琢磨しながら送る賑やかな学生生活は、昔も今も変わらない本学の校風のように感じます。(国立：福岡教育大学学長)
- ・学生を大切に作る校風が生み出され、教育への情熱を培ってきた。それが本学の長い歴史です。(私立：美作大学学長)
- ・学生一人ひとりの主体的な学修を支援する校風が、大学全体に根付いています。(私立：桜美林大学学長)
- ・同級生との絆、先輩と後輩、学生と教員、在学生と卒業生という、人と人とのつながりを

大切にしていける校風……（公立：高知県立大学同窓会長）

これらをみるならば、学生は、教員からの丁寧な指導や学生同士での密接な人間関係を築いて過ごす大学生活の充実感・満足感を語り、大学の長は教育方針として学生を大切にする指導や支援が根付いていることを強調している。この他、校風言及の中での「学生（語彙）」の語られ方について、「学生こそが校風を創造・継承する主体である」ことの自覚やその期待を述べる下記のような事例も確認した。

- ・学生たちは、自分たちがこれからの校風を創るのだという理想に燃え、自治を尊び、自由を楽しんだ。（国立：山口大学ホームページ）
- ・本校の立派な校風を造り上げるのも、すべて皆さん学生であります。（私立：東邦大学ホームページ「創設者挨拶」）

### ③尊重、大切、重要、重視

校風と合わせて「尊重、大切、重要、重視」といった語群の出現も多い（48件）。しかし、これらの語彙については「何を尊重しているか」が示されて初めて校風として具体化する。たとえば建学の精神に応じた教育方針であったり、学業、課外活動、あるいは個性や主体性、教養、実学、研究、といった言葉とあわせて語られ、ここに校風としての具体が示される。以下の言及から確認したい。

- ・京大には自由さと基礎研究重視の校風があり、・・（国立：京都大学学生）
- ・筑波大学には学業を尊重しつつサークル活動も両立できる校風と環境が整っていると感じました。（国立：筑波大学学生）
- ・人や環境への優しさを大切にしている恵泉の校風がとても好きです。（私立：恵泉女学園大学卒業生）
- ・開校以来フィールドワークを重視する校風が形成されていた。（国立：北海道大学広報誌）
- ・困難に立ち向かい、自ら考え、行動する独立の精神と、融和の心を大切にした校風は、いまでも受け継がれています。（私立：昭和薬科大学ホームページ「本学の理念・建学の精神」）

### ④自主、自発、自律

校風形成要素としての「自主、自発、自律」の概念は、他から指図を受けずに自らの意思と判断で行動することという側面において「自由」と通じるものがある。それゆえに校風形成要素としての自由と同様にこの語彙群の出現も上位である（41件）。大学の「自由」という環境の中で「自主、自発、自律」という要素が一体化して機能することで何かが動き、活性化する。そうした環境と行動意識が継承され、それが校風として定着し、その具体的果実が大学の個性を形成する。いくつかの言及を確認しよう。

- ・「自主自立」を重視する校風が自身には合っていて、選手が主体的に考えて練習に取り組んでいるという姿勢は大きな魅力です。（私立：同志社大学学生）
- ・女性が主体的に活動できる校風に惹かれたことも、津田塾を選んだ理由のひとつ。（私立：津田塾大学学生）
- ・主体性を伸ばせる自由なカリキュラムで様々なことに挑戦できる校風に魅力を感じ金沢星稜大学に興味を持ちました。（私立：金沢星稜大学卒業生）
- ・北里大学のとにかく自分で何でも実践させるという校風が大好きでした。（私立：北里大学卒業生）
- ・本学創立当初より、自主性を重んじる自由な校風は今も変わらず、患者のためなら自ら進

んで業務をこなす若いスタッフの多い、活気に溢れる明るい教室です。(私立：大阪医科大学教員)

- ・ このように広く学生を集めているのは、(中略) 自由で自発性を重んじる校風が支えとなっていると考えています。(私立：美作大学学長)
- ・ 自分で考え、積極的な社会活動を展開する校風を醸成してきたことについては教職員全体の努力を多としなければなりません。(公立：滋賀県立大学理事長)

学生に「自主、自発、自律」的活動を可能とし、満足感を与えるために、大学は何をすればよいのか。学生を放任しているだけの大学ならば、学生の自主性、自律性に依存せざるを得ない。それをよしとするのか。むしろ昨今では学生の主体性を育成しようとする大学の取り組みが積極的である。

#### ⑤「育成、育てる、培う」及び「創造、作る、生み出す、生む」

教育という営みは大学の基本機能である。教育活動にあわせて、研究活動や創作創造活動も含め「育成、育てる、培う(34件)」及び「創造、作る、生み出す、生む(31件)」に類する語彙も多く抽出された。教育研究に関する独自の取り組みや考え方の実践や継承を、自学の校風とする言及も多い。この語彙は、卒業生、学長等、大学組織からの言及が多くなる。(後掲の表4、表5参照)

- ・ 玉川は、普通の勤め人を育てる感じの学校ではない校風だと思います。(私立：玉川大学卒業生)
  - ・ 亜大は、個人の成長を伸ばす自由な校風です。(私立：亜細亜大学卒業生)
  - ・ 穏健中正で実行力に富み、国家、社会の信頼に値する人材を育成するという立学の精神のもとに、学生一人ひとりの個性を尊重し、自由な校風を維持しつつ、高度な教育と研究を実践してきた点も、本学の強みとして広く社会に知られるところとなりました。(私立：名城大学学長)
  - ・ 青山らしさとは校風(自由闊達・融通無碍)、人物(至誠・資直)。両者を備えた人物の育成こそが、本学の根幹をなす教育理念の具体的表現です。(私立：青山学院大学副学長)
- 「創造、作る、生み出す、生む」の語彙が語られる場合、「卒業生を輩出する」や「芸術作品を創造する」といった行為や成果のみならず、「校風を創る、培う」という趣旨の事例も目立つ。伝統校では大学の歩みと関わる歴史的な回顧としてこの言葉が使われ、校風が語られる。
- ・ 明るく元気で簡単にへこたれない卒業生を生み出すということも本学の校風として目に見えない資産です。(私立：熊本学園大学学長)
  - ・ 多摩美の校風にも通じるのですが、自由な作品づくりをしてもらいながら、その人の個性をどう伸ばすかに指導の主眼を置いています。(私立：多摩美術大学広報誌)
  - ・ 粘り腰の技術者を育成しようとの気風は、教員と学生にも校風として強く反映している。(国立：秋田大学ホームページ工学資源学部)
  - ・ 「出世する人を生む校風」(私立：中央大学ホームページ「大学紹介」)
  - ・ 意識して自由な校風を作っているというよりは、自然にそんな風土が培われてきたのだと思います。(国立：信州大学学長)
  - ・ (創立者) 先生のお言葉を守り培ってきた伝統や文化、校風、マインドが改めて正しかったと自負している。(私立：日本福祉大学同窓会長)
  - ・ 当時の学生が法政の校風は何ですか、と教員に尋ねたところ、校風は君たち学生が作り上げればいけないか、と叱咤激励されたというエピソードも残っています。(私立：法

政大学ホームページ「HOSEI MUSEUM」)

- ・運動部の活躍は、在学生の大学に対する帰属意識を高め、良き校風を育む原動力となってきました。(私立：亜細亜大学ホームページ「スポーツ振興資金」)
- ・学生も先生も“女子美愛”がすごく強い人が多いんです。初めて女子美祭に参加したときはあまりの愛情の強さに溺れるかと思いました。なぜそんな校風が生まれるのでしょうか。(私立：女子美術大学教員)

歴史の新しい大学、なかでも公立新設大学では、校風の創出や確立を期待して、大学側から学生に期待のメッセージが送られる。校風醸成に、学生が重要な役割を担うことはここでも確認できる。

- ・新しい校風を作るのはあなた方です。(公立：青森県立保健大学教員)
- ・校風はみんなで育てるものである。(公立：宮城大学職員)
- ・大学の性格や校風を創るのは皆さんです。(私立：新潟医療福祉大学広報誌)
- ・いかに愛校心を高めるか、そのために校風を創ることの大切さを掲げます。(私立：金城大学学園報)
- ・本学の真の校風(カラー)を形作っていくのは、これからです。そして、それを担っていくのは、すべての卒業生、在校生、教職員ひとりひとり、つまりあなたです。(私立：四日市看護大学教員)
- ・校風や伝統は、当事者が意識して形成するものではなく、日々の積み重ねの結果として醸し出されてくるものでしょう。(公立：神戸市立看護大学看護学部学科長)

#### ⑥雰囲気

大学に関わる「雰囲気」そのものを、それぞれの校風として語られることも多い(29件)。重要なのは、その雰囲気が何をもって語られるかを見きわめることである。雰囲気について、以下の様に語られる。

- ・僕はオープンキャンパスに参加して、大学の敷地内に緑が多いことや、先輩たちの雰囲気が落ちついていて、校風が自分に合っていると思い埼玉大学に入りたいと思いました。(国立：埼玉大学学生)
- ・中部大学には建学の精神“不言実行”の下、育ってきた「学生」の質にも感じられる伝統や雰囲気というものがあるのです。中部大学の校風・伝統は、これからも必要とされるものですので大切にいただき、優秀な人材を世の中へ送り出してほしいと期待しています。(私立：中部大学教育後援会長)
- ・歴史あるチャペル、ツタの絡まる校舎、自由な校風といった、立教ならではの雰囲気に憧れを抱いて立教大学の門をくぐる。(私立：立教大学卒業生)
- ・校風でしょうか、のんびりとした雰囲気は私が学生だったころから変わりません。(私立：名古屋芸術大学教員)

これらのように在学生の資質や気質、大学構内環境などをもって、雰囲気としての校風が語られる。しかし、雰囲気そのものが校風と同義、もしくは同列で語られている場合も多い。とくに大学が実施する進学理由調査やブランドイメージ調査では、「校風」と「雰囲気」が一括りにされ、ほぼ同一視されることもある。その妥当性はともかく、こうした現況のあることも、校風が「雰囲気」視されるようになり、曖昧となっていることの要因かもしれない。留意しておくべきであろう。しかしそうであっても、大学校風を把握する上では重要な言及である。各種調査結果と関わる校風言及には以下の様なものが確認できた。

- ・立教大学で過ごしてよかったと思うこととして「友人・人間関係が69件、環境・校風・雰囲気について54件、学びに関するコメントも35件」と多くみられました。(私立、立教大学卒業後調査実施結果報告)
- ・早稲田大学を「好きだ」と回答した人の理由には「伝統・校風・雰囲気」を挙げた人が圧倒的に多いことが分かりました。(私立：早稲田大学ホームページ「早稲田ウィークリー」)
- ・女子高校生に聞いた大学ブランドランキングで、本学が「校風や雰囲気が良い」「おしゃれな」の項目において女子大学(関東エリア)1位に選ばれました。(私立：フェリス学院大学大学ニュース)
- ・時は流れて、今や本学は「校風や雰囲気が良い」イメージでは関西首位、そして「おしゃれな」大学としても堂々ランクインしている。(私立：関西大学教育研究開発支援センターニュースレター)

#### ⑦人間関係(「教員、友人、先輩後輩」)

大学構成員が校風を語る場合、そこでの人間関係、なかでも教師と学生の関係や、友人との親交経験とその満足感が基軸となることも多い。大学校風の醸成にあって、その大学での人的交流の豊かさやそのための環境提供が重要な意味をもつことを裏付ける。教員と学生との距離の近さや、学生同士の幅広い交流、生涯の友との出会いなど、豊かな交友関係構築を導く環境が定着している大学は、学生、卒業生に多くの満足感を与え、それがその大学の強みにもなっている。

また、「教員、先生、教授」の語群が校風と合わせて語られる場合、以下引用にあるように、教員による指導の丁寧さ、親切さ、身近さが、その大学の教育的指導の根幹として常態化していることが推察できる。

- ・本学には基本から応用まで丁寧に指導してくれる校風があることを聞き、中学生の頃には本学を志望する決意をしました。(国立：東北大学学生)
- ・穏やかな校風や、親身になってお世話してくださる担任の先生によって次第に不安が無くなり、大学に通ううちに気軽に話せる友人を得ることが出来ました。(私立：武庫川女子大学学生)
- ・佐賀大学の大きな特徴のひとつは、学長を含めた先生方の寛容な校風、愛情に満ちた校風にあると言えます。もちろん、勉強するための環境にも恵まれています。(国立：佐賀大学卒業生)
- ・教員と学生との距離が近く、アットホームな校風は守り続けたい大切なもの。(国立：香川大学教員)
- ・先生方も教育熱心です。この校風は本学の誇りであり、末永く堅持してもらいたいと思います。(公立：埼玉県立大学前理事長)

生涯の友を作ることができた大学環境や、友人と過ごしたかけがえない時間、空間、機会の豊かさを校風として捉える言及も多い。この他、学部や立場上下の垣根なく交流できる雰囲気も校風として捉えられている。

- ・天理大学には、お互いを助け合い、支え合う校風が根付いている。(私立：天理大学学生)
- ・学部を超えて先生方が学生に手を差し伸べる校風は、西南学院大学のよいところだと感じます。(私立：西南学院大学卒業生)
- ・本学は旧制第六高等学校の精神を継承し、部活動などを通じ、心友を獲得することに重き

をおく校風があった。(国立：岡山大学後援会ニュース)

- ・教室で学んだ知識を統合して、実際に問題を解決する場となっており、また、先輩から後輩への校風の継承にもつながっている。(公立：滋賀県立大学アクティブラーニング報告書)
- ・友人の友人は、もう友人。これは甲南大学ならではの校風ですが、その枠はキャンパスだけに限りません。(私立：甲南大学教員)
- ・東工大には、理工系の大学でありながら、リベラル・アーツを重視する伝統があり、理工系教員と文系教員が垣根なく自由に意見を交わす校風があります。(国立：東京工業大学教員)

#### ⑧「活気、元気、活発」及び「真摯、真面目、誠実」

大学とその構成員が繰り広げる日常的な営みの状況や、そこから得られる感情を校風として語られることも多い。たとえば、「活気、元気、活発、躍動、盛ん、賑やか」といった活発性、活動性を示す語彙がある(26件)。また「明るい」という記載・言及も多い(14件)。これら事例を引用してみよう。

- ・まず気に入ったのは、全学部が一拠点に集まっているところ。目指している理系はキャンパスが離れている大学が少なくない。にぎやかで元気な校風を求めていた私の心は一瞬で魅了された。(私立：京都産業大学学生)
- ・私は立命館の元気あふれる校風が気に入っています。自分のルーツになる母校の校風は、ぜひ大事にしてほしいと思います。(私立：立命館大学卒業生)
- ・明治学院大学はボランティア活動が活発であることが校風の一つとなっています。この校風は学生の主体的意欲と教職員のサポートが基盤になっていると考えています。(私立：明治学院大学学長)
- ・東京音楽大学の自由活発な校風が皆さんの学びやチャレンジを後押しします。(私立：東京音楽大学ホームページ「東京音楽大学の特色」)
- ・2つの講演で受けた質問の質の高さからも、OISTには議論が活発に行われている校風があると感じました。(私立：沖縄科学技術大学院大学学外者)

学生は躍動感のある活気、元気のある校風を、自らの進学理由や平素大学生生活の充実感として語る。卒業生は大学時代を回顧して満足感を示す。学生時代のそうした校風が自己形成にも影響した言及もある。学長や大学側も、活力ある大学環境を強調し、学生や志願者の様々な主体的活動を促進する。活気ある校風は、まごうことなく大学の魅力であり、それは志願者を引きつけ、在学生の活動成果指標となり、卒業生には母校の豊かな思い出につながる。社会も、そうした大学の学生、卒業生に対し、校風のイメージを重ね合わせることであろう。

その一方で、大学の様々な活動を「真摯、実直、誠実」に行うことも、大学やその構成員の志向する姿である。校風と合わせて「真摯、誠実、真面目、地道、実直」等の語彙を語った事例は26件ある。

- ・京女を選んだのは歴史がある点、真面目な校風、就職率の高さなどに魅力を感じたからです。(私立：京都女子大学学生)
- ・真面目な校風がとてもよい。(公立：東京都立大学卒業生)
- ・下関市立大学は小規模校ながら質実剛健、自由、地道といった校風により公立大学としての歴史を刻んできた名門校であったと実感しております。(公立：下関市立大学卒業生)
- ・東京理科大学を選んだ理由を聞くと「まじめな校風が自分の性格に合っていたから」と笑う。(私立：東京理科大学卒業生)

- ・何よりも堅実・実直な校風で地域からも信頼され、卒業生が高い評価を受けていることなど整理できる。(国立：宇都宮大学監査報告)
- ・本学設立と共に培われてきた校風・伝統である「誠実努力」の精神に基づき、物理学とその関連分野に対して厳正な教育課程を実践する。(私立：工学院大学応用物理学科学生の手引き)
- ・『至誠一貫』は本校の校是であり同時に校風なのであります。(私立：昭和大学ホームページ「創設者挨拶」)
- ・真面目さ、誠実さが神戸学院大学の校風ではないでしょうか。誇りに感じています。(私立：神戸学院大学学長)

学問研究やものごとに真摯誠実に取り組む校風は、一朝一夕に形成しうるものではない。大学の教育方針の下に、教員と学生がそれぞれに取り組み、継承することで醸成された気風といえよう。そうした校風に魅了される志願者も多く、卒業後の満足感や自己形成の要因として回顧する卒業生もいる。このことは「大学の強み」として強調すべきであり、重要な大学評価指標ともなる。

#### 4. 「語り手」から確認する校風要素の傾向

その大学構成員として、大学にどう関わってきたかによっても、それぞれの校風認識は異なろう。それゆえに校風言及について、誰が、校風の何について語ったか、その把握も重要と考える。語り手ごとの校風認識の違い、あるいは逆に語り手を問わない共通する校風認識など、その把握は本研究の重要な検証課題となる。以下、大学サイトから抽出した校風言及のうち、語り手として件数が多かった「学生」、「卒業生」、「学長・学部長等」、「大学組織」について、誰が校風の何を語ったかを分類整理する。

##### (1) 学生が語る校風形成要素

学生が校風を語る場合、上位の抽出件数項目(語彙)は「自由(21件、発言比率<sup>7)</sup>18.1%)」、「雰囲気(10件、発言比率34.5%)」、「女性、女子(10件、発言比率38.5%)」、「のんびり、穏やか、平穩、落ち着き(9件、発言比率50.0%)」などであった(表2)。学生が発言した校風要素を類型から確認すれば、「志向価値・行動規範」類型以外にも、平素の大学生活をふまえた「感情・状況」をはじめ、「教育研究」、「人間関係」、「立地・景観」の類型が見られる。

たとえば「自由」についての言及として「中部大学はすごく自由な校風の大学であり、自分が研究したい方向性に添った指導をしてもらえます(私立：中部大学学生)」とある。高校時代と比較して、束縛も少なくやりたいことに専念にできる大学生活の実感が学生の校風意識を形成しているのだろう。

校風要素項目として「のんびり、穏やか、平穩、落ち着き(9件、発言比率50.0%)」は、学生の発言が全発言中の半数を占める。さらに「のびのび、伸びやか、おおらか(5件、発言比率38.5%)」、「女性、女子(10件、発言比率38.5%)」、「雰囲気(10件、発言比率34.5%)」、「建物、校舎、キャンパス、光景(6件、発言比率33.3%)」、「あたたかい、ぬくもり(5件、

7)「発言比率」とは、該当する校風形成要素の全言及数のうち、各語り手が発言発信した件数の比率を言う。表2～表5の記載表示でも同様である。

表2 学生が発言する校風要素（発言数71件，全体発言数471件中の15%）

学生発言 数 順位	校風形成要素（語彙）	学 生 発言数	全 体 発言数	全体発言 数の順位	要素中の学 生発言比率	類型
	校風	71	471		15.1%	
1	自由	21	116	1	18.1%	志向価値・行動規範
2	雰囲気	10	29	8	34.5%	感情・状況
2	女性，女子	10	26	10	38.5%	人間関係
4	のんびり，穏やか，平穩，落ち着き	9	18	22	50.0%	感情・状況
5	自主，自発，自律	8	41	4	19.5%	志向価値・行動規範
5	尊重，大切，重要，重視	8	48	3	16.7%	志向価値・行動規範
7	勉強，学習，学問，まなび，学ぶ	7	31	6	22.6%	教育研究
8	建物，校舎，キャンパス，光景	6	18	22	33.3%	立地・景観
8	家庭的，アットホーム	6	25	15	24.0%	感情・状況
10	のびのび，伸びやか，おおらか	5	13	34	38.5%	感情・状況
10	あたたかい，ぬくもり	5	16	28	31.3%	感情・状況
12	個性，ひとりひとり，ユニーク	4	26	10	15.4%	志向価値・行動規範
12	活気，元気，活発，躍動，盛ん，賑やか	4	26	10	15.4%	感情・状況
12	支援，サポート，支える，世話	4	14	31	19.0%	教育研究

発言比率31.3%）」の発言比率も30%を越えて高く，「家庭的，アットホーム（6件，発言比率24.0%）」の比率もこれに近い。

「女性，女子」については，「津田塾大学を選んだ理由として校風や真面目な雰囲気が好きだというのがありまして，それが実は女子大であることからきていた。（私立：津田塾大学学生）」，「奈良女子大学の自由な校風と同様に，研究が自由に進められるところも，この大学の良さだと思います。（国立：奈良女子大学学生）」など，女子大学に在籍する学生が，女子大学だからこそその校風を「雰囲気」とあわせて語る事例も10件あった。このほか，高校時代にオープンキャンパスや大学祭に来た折り，大学の雰囲気や先輩の人格が「穏やか」であったということで進学を決めたこと，あるいは入学してこのことを実感したという言及も散見できる。たとえば「（都立大を進学先に選んだ理由は）大学祭で感じた穏やかな校風などを踏まえて選択しました。（公立：東京都立大学学生）」，「何よりも穏やかな校風に魅力を感じ，京都女子大学を志望しました。（私立：京都女子大学学生）」，などの言葉がある。

校風要素について，「のんびり，穏やか」という校風要素について，全体で18件の言及があるが，その半数は学生による。それゆえ，「のんびり，穏やか」という校風も，大学の個性であり，志願者を引きつける強みとなりうる。学生や志願者のこうした校風志向を，いかに教学マネジメントやキャンパス景観と連動させて，学生の満足度を高めるかは大学にとっての重要課題といえよう。

学生が言及する校風構成要素のうち，特徴あるものとして「のびのび，伸びやか，おおらか」がある。たとえば「みなさんも，SUACの自由でのびのびとした校風を味方に，就職のための学びだけでなく，自分らしい学生生活を送ってほしいと思います。（私立：静岡芸術文化大学学生）」と現役学生から高校生に向けた言及がある。この他，教職員と学生の距離の近さも校風と捉えている。例をあげれば「在学生の方が先生と親しくされている様子や，卒業生が大学に集まって実習室でスキルを磨かれている姿をみて面倒見の良さを感じ，アットホームな校風が（進学の）決め手となりました。（私立：京都橋大学学生）」，「YCUの好きなところ。海が近く，のんびりした校風。少人数なので，とにかく先生との距離が近い。やりたいことをやらせてもらえる贅沢な環境です。（公立：横浜市立大学学生）」など，こうした言及は，ST

比（教員1人あたり学生数）の小さな小規模大学や国公立大学、女子大学等に多くなる。これらも大学としての「強み」要素になろう。

## (2) 卒業生が語る校風形成要素

卒業後の社会生活をふまえて大学での諸経験を回顧し、そのうえで若干距離を置いた立場から大学校風を認識できるのが卒業生である。卒業生はそうした母校の校風を社会に伝播する役割も担い、社会からは卒業生自身が「大学校風」そのものとして見られることもままある。卒業生が語る大学校風と、そこで示される形成要素は、大学の「強み（あるいは改善点）」として大学運営に資するものが多い。こうしたことを認識しながら、卒業生の校風言及を表3で確認すれば、やはり最上位に「自由（47件、発言比率40.5%）」が来る。これに「自主、自発、自律（11件、発言比率26.8%）」、「学生（8件、発言比率15.4%）」が続く。発言比率で言えば「開放的、枠を超えた（7件、36.8%）」、「豊か、満ちあふれる（7件、発言比率30.4%）」などが高比率であるのも卒業生による校風認識の特徴である。

表3 卒業生が発言する校風要素（発言数110件、全体発言数471件中の23%）

卒業生発言数順位	校風形成要素（語彙）	卒業生発言数	全体発言数	全体発言数の順位	要素中の卒業生発言比率	類型
	校風	110	471		23.4%	
1	自由	47	116	1	40.5%	志向価値・行動規範
2	自主、自発、自律	11	41	4	26.8%	志向価値・行動規範
3	学生	8	52	2	15.4%	人間関係
4	勉強、学習、学問、まなび、学ぶ	7	31	6	22.6%	教育研究
4	個性、ひとりひとり、ユニーク	7	26	10	26.9%	志向価値・行動規範
4	豊か、満ち溢れる	7	23	16	30.4%	感情・状況
4	開放的、枠を超えた	7	19	21	36.8%	感情・状況
8	雰囲気	6	29	8	20.7%	感情・状況
8	尊重、大切、重要、重視	6	48	3	12.5%	志向価値・行動規範
10	家庭的、アットホーム	5	25	15	20.0%	感情・状況
10	先生、教員、教授	5	28	9	16.7%	人間関係

自由についての言及は、全体発言件数116件の内、4割が卒業生によるものである。社会人としての自分に学生時代の自由の校風がいかに影響しているかの言及がいくつもある。これを引用するならば、「コミュニケーションがいかに重要か理解できるのは大学時代の経験があるから。学生のやりたいことを応援してくれる、立教の自由さに満ちた校風にも感謝しています。（私立：立教大学卒業生）」、「産業社会学部は自由な校風だからこそ沢山の人脉と知識が形成され、それぞれの人生につながっていきます。（私立：立命館大学卒業生）」、「ジャズ奏者として自由な発想を豊かにさせてくれたのが南山大学の自由な校風のもとで過ごした日々でした。（私立：南山大学卒業生）」。「しかし同時に「確かに自由で、社会に出てからも群れを好まない、個人的には大好きな校風です。しかし、統制や束縛から解放されるだけの自由はありません。責任を取る覚悟だけは持って、自由に自分らしく生きていければ最高ですね。（国立：京都大学卒業生）」など、自由という校風の中で、自律した自己の確立を助言する卒業生もいる。

大学が、何らかの要素で「豊か、満ち溢れた」と回顧して、校風を語る卒業生もいる。「明治の校風は門閥や学閥には無縁の気楽な空気に満ちていて、4年間のうちに好きなだけ勉強して単位を取れば、あとは自由で良いといったふうであった。（私立：明治大学卒業生）」、「個性豊かで元気な女子たちの自信と希望に満ち溢れた校風経験を重ねました。一步一步が未来の大

きな力になるはずです。(私立：愛知淑徳大学卒業生)」。

さらに「芸術論など、計算で答えを出すことができない一見不毛にも見える問答を、先輩や教授たちなど多くの人間たちと垣根なく会話、そして討論できる校風があり、現在の自分の土台に大きく貢献してもらいました。(国立：九州大学卒業生)」,「NAISTでの5年間、非常に楽しい研究生生活を送ることができました。それはNAISTがとても開放的で自由、かつ自主性を認める校風だからです。(国立：奈良先端科学技術大学院大学卒業生)」,「会社には9名の桜美林卒業生がいますが、みなコミュニケーション力が豊かなのは大学の学びや環境のおかげ、もしくは校風ですかね。私自身も社内教育に少しずつ関わる立場になり、大学で身につけた人間関係を築き上げる力が役立っています。(私立：桜美林大学卒業生)」など、学部や学科、人間関係の枠を超えた交流や活動が日常的だった状況を校風と認識する卒業生もいる。大学校風について「自主、自発、自律(11件、発言比率26.8%)」や「個性、ひとりひとり、ユニーク(7件、発言比率26.9%)」といった要素も卒業生の発言比率が高い。

類型で見るならば、学生の校風言及類型と同様に「感情・状況」類型や「志向価値・行動規範」類型が多く、それらで上位半数を占める。社会人生活に照らしながら、大学時代の経験に対する意味づけを行い、それを提供してくれた母校に浸透する特質を校風として語っていると考えられる。

### (3) 学長・学部長・理事長等が語る校風形成要素

学長、学部長、理事長など、大学組織の長も「自由(17件、発言比率14.7%)」を語る場合が多い(表4)。例をあげれば、「ひとりひとりの学生と教員が向かい合い、社会の改善を高く志すとともに自由と個性を尊重する本学独自の学風は、武蔵野の清々しい空気の中でさらに開花して、独自の個性と魅力を備えた商業・経済系大学として、商学、経済学から、法学、社会学、さらには哲学、歴史学など、人文社会科学の諸領域における研究と教育が発展していきました。(国立：一橋大学学長)」といったメッセージや「京都大学の校風である「自由の学風」を慕って全国各地から高い志を胸に秘めた気鋭の若者が集い、京都の地で日々切磋琢磨することで、幾多の日本・世界をリードする医学者・医学研究者を輩出するとともに、多くの独創的な医療や研究成果を発信してきました。(国立：京都大学医学部長)」など、自由の校風とそれぞれの立地環境の中で、独自の研究成果を上げてきたことを強調する。

学長等の場合、たとえば「医学・医療の攻究と地域医療への貢献が本学の建学の精神であり、本学の校風となって、これが教職員と学生の精神的支柱になっているのであります。(公立：札幌医科大学学長)」や「私立大学は、創立者の建学の理念を大切に校風を作り上げていきます。(私立：東京経済大学理事長)」,「門戸開放の理念は、旧制高校出身者以外の学生の受け入れを行ったことや、当時の文部省の指導にも屈せず、帝国大学として初めて女子学生を入学させたことでも知られています。ここに「研究第一」の理念が相乗し、開放的な気風と研究に熱中する真摯な校風が開花していきました。(国立：東北大学総長)」など、その大学独自の気風や学風、創設者と建学精神、あるいは大学の歴史や伝統を校風と関わらせて語ることが多くなる。

大学を運営統括する立場から、それぞれの大学における教育研究の基本的考え方が校風として継承されていることの重要性を強調する言及もある。例をあげれば「生命の尊厳と隣人愛は現在の教育でいかに浸透しているか、又させているか、校風として学生達にいかに受けつがれ、又魅力となっているか、等について再考し、それをいかに公的にアピールするかが急務と考えます。(私立：聖隷クリストファー大学学長)」,「岩手大学農学部は「実学」を目指して教育・

表4 学長、学部長等が発言する校風要素（発言数85件、全体発言数471件中の18%）

学長等発言数順位	校風形成要素（語彙）	学長発言数	全体発言数	全体発言数の順位	要素中の学長等発言比率	類型
	校風	85	471		18.0%	
1	自由	17	116	1	14.7%	志向価値・行動規範
2	学生	14	52	2	26.9%	人間関係
2	学風、気風、美風、風土	14	26	10	53.8%	歴史・建学理念
4	建学、建学者、創設者	12	20	20	60.0%	歴史・建学理念
5	尊重、大切、重要、重視	11	48	3	22.9%	志向価値・行動規範
5	育成、育てる、培う	11	34	5	32.4%	教育研究
7	真摯、誠実、真面目、地道、実直	10	26	10	38.5%	志向価値・行動規範
8	活気、元気、活発、躍動、盛ん、賑やか	9	26	10	34.6%	感情、状況
8	研究	9	17	24	52.9%	教育研究
8	先進性、先頭、先駆け、リード、進取	9	14	31	64.3%	志向価値・行動規範
11	創造、作る、生み出す、生む	8	31	6	25.8%	志向価値・行動規範
11	先生、教員、教授	8	28	9	26.7%	人間関係
11	教育、教育内容、おしえ、指導	8	21	17	38.1%	教育研究
14	勉強、学習、学問、まなび、学ぶ	7	31	6	22.6%	教育研究
14	立地、地域、街	7	21	17	33.3%	歴史・建学理念
16	国際性、グローバル、世界、異文化	6	17	24	35.3%	志向価値・行動規範
16	維持、継承	6	15	29	40.0%	志向価値・行動規範
18	自主、自発、自律	5	41	4	12.2%	志向価値・行動規範

研究を行ってきた校風と伝統があります。そしてこのことは高等農林の創設の理念ともつながっているのです。（国立：岩手大学農学部学科長）」などがある。校風と関わらせたこれら大学の理念や歴史、教育研究の方針等についての発言比率は、学生、卒業生に比べて圧倒的に高い。

「大学は「分からないこと」を「分かる」ための場所だから質問が活発に飛び交う校風にこれからの大学運営には、冷静かつ建設的に取り組む所存です。（私立：松山学長インタビュー）」、「前例主義を廃し、創造的な大学の時空間を創造。幸いその校風は芽を出しつつあります。（公立：京都府立医科大学学長）」といった、新たな校風形成の抱負を語る学長もいる。

学長等が語る校風にあって、立地や地域性を形成要素として重要視する例も少なくない。これには公立大学の学長挨拶等での発言が多い。たとえば「地域と共に発展する大学の校風を築いてまいりました。（公立：新潟県立看護大学学長）」や、「（前掲）自由に明るく、地域との交流を深める中で、実践的に学ぶことが本学の校風です。（公立：静岡文化芸術大学学長）」などの事例がある。

#### （4）大学組織が発信する校風形成要素

大学組織<sup>8)</sup>の校風発信においても「自由」が最も多く語られる（34件、発信比率29.3%：表5）。たとえば「自由な校風こそ数学を育む上で最も重要です。そういった開放的な雰囲気の中で皆さんの資質が十分伸ばせます。（国立：名古屋大学理学部数理学科案内）」、「本学は、講義の合間や放課後に、学生が頻繁に研究室に出入りできる自由な大学です。（公立：千歳科学技術大学ホームページ）」、「本学は「美術は自由なる精神の所産」を建学の心とし、1935年（昭和10年）の開校から現在に至るまで、その「自由なる精神」を脈々と引き継ぎながら、「自由

8) ここで「大学組織」と区分するのは、ホームページ等で校風について大学組織が直接言及し、発信・公開している事例をいう。ここでは学部や学科による校風言及も含む。

表5 大学組織が発信する校風要素（発言数125件、全体発言数471件中の27％）

大学組織等 発信数順位	校風形成要素（語彙）	大学組 等発信数	全 体 発言数	全体発言 数の順位	要素中の大学組 等発信比率	類型
	校風	125	471		26.5%	
1	自由	34	116	1	29.3%	志向価値・行動規範
2	尊重, 大切, 重要, 重視	19	48	3	39.6%	志向価値・行動規範
3	学生	13	52	2	25.0%	人間関係
3	創造, 作る, 生み出す, 生む	13	31	6	41.9%	志向価値・行動規範
5	自主, 自発, 自律	12	41	4	29.3%	志向価値・行動規範
6	個性, ひとりひとり, ユニーク	11	26	10	42.3%	志向価値・行動規範
6	学風, 気風, 美風, 風土	11	26	10	42.3%	歴史, 建学理念
8	家庭的, アットホーム	10	25	15	40.0%	感情・状況
9	教育理念, 校訓, モットー	9	17	24	52.9%	人間関係
9	独自, 独特, 独創性	9	17	24	52.9%	感情・状況
11	女性, 女子	8	26	10	30.8%	教育研究
11	豊か, 満ち溢れる	8	23	16	34.8%	感情・状況
11	維持, 継承	8	15	29	53.3%	志向価値・行動規範
14	育成, 育てる, 培う	7	34	5	20.6%	教育研究
14	雰囲気	7	29	8	24.1%	人間関係
14	活気, 元気, 活発, 躍動, 盛ん, 賑やか	7	26	10	26.9%	志向価値・行動規範
17	勉強, 学習, 学問, まなび, 学ぶ	5	31	6	16.1%	教育研究
17	先生, 教員, 教授	5	28	9	17.9%	人間関係
17	真摯, 誠実, 真面目, 地道, 実直	5	26	10	19.2%	志向価値・行動規範

と意力」を理念として、独自の校風を築いてまいりました。（私立：多摩美術大学ホームページ）」など、それぞれ大学の建学精神や教学特性を、自由と関わらせながら校風を伝えている。

大学組織が校風発信する場合、「維持、継承（8件、発言比率53.3%）」、「独自、独特、独創性（9件、発言比率52.9%）」、「教育理念、校訓、モットー（9件、発言比率52.9%）」など、建学の精神をふまえた教育研究の姿勢、独自の気風やそれに立脚した独自の気風、あるいは大学文化や精神の継承を強調することが多くなる。これら項目の発信比率は全体の半数を超える。この他、「学風、気風、美風、風土（11件、発言比率42.3%）」、「個性、ひとりひとり、ユニーク（11件、発言比率42.3%）」、「創造、作る、生み出す、生む（13件、発言比率41.9%）」、「家庭的、アットホーム（10件、発言比率40.0%）」等についても4割をこえる。

「校風のことやりばらる・アーツという本学ならではの教育の特色が（進学理由の）上位に入っておらず、広報に改善の余地があるといえる。（私立大学：新入生アンケート調査結果報告）」というように、独自の校風が伝わっていないことを反省する言及もあった。独自の校風に関する発信例を挙げるならば「長い歴史の中で、国際的視野に立って知を創造するとともに継承・発展させ、新たな課題に立ち向かう使命感を校風の核とし、国内外に質高い教育・研究成果を還元してきた。（公立：京都府立医科大学認証評価報告書）」、「独立・融和の精神が、昭和薬科大学の建学の精神として受け継がれ、自由闊達で民主的な校風を生み出している（私立：昭和薬科大学2009年度自己点検評価報告書）」、「建学の理念とそこから生まれ受け継がれてきた早稲田スピリットは、私たちの財産。早稲田人がひとしく身につける校風です。（私立：早稲田大学ホームページ「早稲田大学教旨」）」、「多様な個性が刺激しあい、ともに高めあっていく校風が本学の強みである。（私立：日本体育大学学報）」など、重要視する教学姿勢、人間像、達成成果などと合わせ、独自の校風とその継承使命を公にしている。

## 5. マイナス要因としての校風

今回抽出した校風言及は、必ずしも肯定的なものばかりではない。校風がマイナス要因となっている言及も30件確認した。いくつか引用したい。なお、この言及に関しては個別大学名を明記しない。

まず、自学の校風が大学の活性化や学生の便宜につながっていない状況を懸念する言及があった。特に「のんびりした気風」や「消極的傾向の校風」に関する言及である。たとえば「のんびりした校風は時に就職活動にブレーキをかけてきた。(国立大学：大学職員)」,「歴史の浅い大学の出身者にはこうした強い校風が感じられず、個々人の資質や性格を別にすれば、「おとなしく、くせがない」ということになります。(国立大学：教員)」,「本学生は礼節や人への思いやりはピカイチだと思うが、ある面では慎みが強すぎて、自分が前に出ることをちゅうちょする傾向がある。校風としてはいいかもしれないが、一歩引いてしまい、発言できなくて失敗してしまうこともある。特に、就職活動ではそれを感じる場合もあると思う。(私立大学：教員)」など、特に就職面での不利を教職員の立場から心配している。

また、校風自体は満足すべきものではあるが、ややもすると居心地のいいその状況に安住してしまうことへの懸念もあった。すなわち「一種の家族的雰囲気とでも称すべきものは、良い意味での校風だろうが、なかなかそこから抜け出せない。(国立大学：卒業生)」,「(母校の校風は)それはとても貴重で素晴らしい環境だと思うのですが、一方で今の私の視点で学生達を見ると、守られた世界の中で満足してしまっている子も結構多いのではないかな、という気がします。自分の興味の向くことがあれば、もっと外部でのイベントや大学外の人にも繋がっていけるようになると、自分自身の気づきになったり、未来に向けたチャンスになったりと、いろんな可能性が広がると思いますよ。(公立大学：卒業生)」。この他、自由という校風ゆえに、何をしてもいいが何もしない(勉強しない)につながった経験を指摘する卒業生らの言及もある。「自由な校風でもありましたから、アルバイトやスポーツ、遊びに没頭しました(私立大学：卒業生)」,「バブルの時期になると、私立大学の校風が好まれたのか受験生が増加し、勉強しない学生が増え、そしてずば抜けた優秀な学生も少なくなってきました。(私立大学：卒業生)」,「(自由な校風の中で)先生は何も教えてくれないと思っていました。(公立大学：卒業生)」。大学運営と校風の関わりについての言及もある。「学部の自治を重んじている校風は理解するが、組織を形成する上で、規程も組織自体もツリー構造が形成されているはずである。規程の整備が不十分であるため、組織自体もどのような構造になっているかが、非常にわかりにくい。(私立大学：外部評価委員会)」

校風は継承するのみならず、時に応じて見直しや刷新も必要ともいえる。

## 6. 校風形成要素をふまえた大学価値の確認と創生に向けて

### (1) 校風形成要素の対極化(大学校風の立ち位置確認として)

本稿の目的は、校風言及から校風形成要素(具体的語彙、概念)を抽出可視化すること、そしてこれを大学活性化に資する題材として提示することにある。これまでの校風言及テキスト分析抽出により、大学に関わる校風形成要素について、ある程度その輪郭が明らかになってきた。これをふまえ、今回抽出した頻出校風形成要素群について、これに対極する要素群を置き

た表を試作した（次ページ「表6」）。この表に掲載した対極する校風形成要素群に照らし、それぞれ大学の現在、あるいは本来あるべき校風位置を当てはめ、強調、強化、改善すべき方向性を確認することができる。その確認は大学の「強み（価値）」確認につながり、大学の運営、教学マネジメント、志願者募集、卒業生・保護者事業、あるいは社会貢献事業の方針決定に援用可能かもしれない。試作した表6は抽出数が多かった項目群を各列左側に配置し、これに対極する校風形成要素を、調査で抽出した語句中から見いだし、抽出数の多寡にかかわらず対置した。なお、対置要素については、今回調査の中で抽出されていない項目もある。また、これら対置した校風要素は必ずしも対義語、反対語の関係ではない。

この「対極化」はあくまでも試行であり、その有効性の実証は、今後の検証課題としている。また、大学それぞれの位置づけを項目すべてにおいて確認する必要も無い。

## (2) 「校風」形成要素の評価指標化

本稿では、大学における校風について、その形成要素を明らかにして校風輪郭の把握を試みた。このことの最終的ねらいは、それぞれ大学の「強み（存在価値）」を大学校風から再確認し、これを大学のさらなる活性化につなげることにある。それゆえ校風形成要素の抽出と可視化のみならず、校風を大学の強みを発揮する具体的施策指標として策定すること、及びその実効性の検証を目指している。

そこで今回、まずは抽出した校風形成要素について、これを大学の行動目標や達成成果指標として具体的可視化すべく、実際に大学機関別認証評価や国立大学・公立大学それぞれの法人評価などで使用されている評価指標を当てはめた一覧を試作した（表7）。とはいえ、現段階においてあくまでも試行的策定段階であり、その妥当性や実効性は実証していない。その作業は今後の課題である<sup>9)</sup>。

# 7. まとめと知見

## (1) 調査結果のまとめと知見

本稿のまとめとして、今回調査から得た知見を整理し、あわせて本研究課題に照らした今後の研究課題について提示する。

各大学のホームページにおける校風言及の抽出を試みた結果、国公立にかかわらず、多くの大学でそれぞれ校風について多様な言及があった。大学校風はなんらかの事項（語彙）とあわせて語られ、これによって校風の考え方や感じ方、あるいは様態・状況が具体化されていた。これら項目を「校風形成要素」と見なすことができる。特に多く提示されるのが「自由」という概念であった。束縛や拘束の少ない中で、学修や研究活動、課外活動やボランティア活動など、自分の意図するさまざまな取り組みに熱中できる環境に大学があること、あるいはその中で構成員が主体的にそれぞれ取り組んでいる様子を、大学とその構成員は「自由な校風」と語っていた。しかしその一方で自由という校風は、学生、あるいは構成員の放任・放置につ

9) 校風形成要素とその指標に対する妥当性と有効性の検証は、2023年以降に全国大学、及び校友会・同窓会・教育後援会を対象としたアンケート調査の実施を予定している。また、校風形成要素の達成指標妥当性・実効性の検証として、大学機関別評価（報告書、もしくは評価結果）から校風・校風要素に関わる記載を抽出し、またそれぞれについての資料データの確認を行う予定である。これら検証は、前掲科研費研究の一環として実施する。

表6 校風形成要素の「対極化」概観

校風形成要素 ←	⇒ 対極する校風形成要素
志向価値・行動規範	
自由	規律, 束縛, 統制, 秩序, 制約, 教義
個性, ひとりひとり, ユニーク	統一, 結束, 画一, 他者, 他人, 希求する人間像, 平凡, 均等, 均質, 類型, タイプ, 共通
礼儀作法, マナー, モラル	奔放
印象, イメージ	実際, 実像, 本質
文化	破天荒, 粗野, 身体, 自然, 天然
おしゃれ, 洗練, 身だしなみ	素朴, 地味, 粗野, 質素
自治	管理, 統制, 規律, 規則
質実剛健	柔軟, しなやか, 穏やか, 洗練, みやび
自主性, 自発性, 自律性, 自分	他者, グループ, 容認, 協調性, 相互理解
創造, 作る, 生み出す, 生む	継承, 破壊, 保守
真摯, 誠実, 真面目, 地道, 実直	華美, 飛躍, 軽やか, 一気, 華麗, 派手
国際性, グローバル, 世界, 異文化	地域, 地方, 国内, 自国文化, 伝統文化
独自, 独特, 独創性	共通, 普遍, 模倣, 支配的, オマージュ
維持, 継承	変更, 変化, 改革, 革新, 刷新
先進性, 先頭, 先駆け, リード, 進取	原点, 根幹, 中庸, 慎重, 思慮
ダイバーシティー, 多様性	統一, 独自, 画一, 均一, 均等, 一律, 平均
気品, 上品	世俗, 荒けずり, 剛毅, バンカラ
新しさ, 清新	伝統, 復古, 懐古
討論, 議論, 談論	講義, 礼拝, 講習, 説法, 説教
課外活動, サークル活動, スポーツ	正課授業, カリキュラム, 学修活動, 研究活動
つなぐ, 連携, 連帯	独立, 独力, 自律
変える, 打破, 破る,	維持, 普遍, 継続, 固持
リベラル (寛容)	権威, 厳格, 中道, 中庸, 保守
熱心, 情熱, 熱中	冷静, 超然, 理知
努力, 励む	才能, 天賦
バンカラ	おしゃれ, 気品, 上品, ハイカラ (進歩, 洒脱)
生活	理想
誇る, 誇り	謙遜, 謙讓
発展	結集, 保持, 原理, 原則, 凝縮
着実	飛躍

校風形成要素 ←	⇒ 対極する校風形成要素
教育研究	
育成, 育てる, 培う	学修, 習う, 受ける, 自然発生
勉強, 学習, 学問, まなび, 学ぶ	教える, 鍛錬する, 指導する
伸ばす, のばす, 高める, 成長	形成, 枠づける, 完成
実学尊重, 実学	教養, リベラルアーツ, 研究第一主義
研究	教育, 社会貢献

人間関係	
女性, 女子	男性, 男子, 多様性
卒業生, 同窓生	志願者, 高校生
少人数	大規模, 多彩

状況・感情・雰囲気	
活気, 元気, 活発, 躍動, 盛ん, 賑やか	冷静, 穏やか, 静か, 静寂, 不動
家庭的, アットホーム	社会的, 現実的, 刺激的, 競争
豊か, 満ち溢れる	清貧, 質素, 渴望, ハングリー
開放的, 枠を超えた	一体, 集中的, 集团的, 指向的
のんびり, 穏やか, 平穏, 落ち着き	刺激, 競争, 激しい, 激烈, 緊迫
あたたかい, ぬくもり	冷静
親身, 距離が近い, 仲が良い	自立, 主体性, 群れない, 放任
のびのび, 伸びやか, おおらか	細やか, 堅実, 実直, 几帳面, 繊細
特色, 特性, 特徴	多様, 平凡, 一般, 中庸
現実, 現在, 実際	理想, 夢
柔軟, やわらかい, しなやか, 融通無碍	堅固, 強固, 貫徹, 堅持, 一貫, 不屈
困難, 苦勞, 厳しさ, きびしい	気楽, 明るい, 緩和
時代	普遍, 永遠

立地・景観, 歴史・建学理念	
緑, 象徴	都市, 表象, 抽象
建学, 建学者, 創設者	改革, 革新, 継承者
教育理念, 校訓, モットー	実情, 改革, 改善, 創造, 先進, 刷新

※本表の各列左右の対照する項目は校風形成要素として想定しうる対極的概念(形成要素)である。ただし、必ずしも対義語、反対語の関係にあるものではない。

表7 校風を可視化する指標例

校風形成要素（例）	校風の可視化，またはそれを検証する「指標」例
自由	カリキュラムの内容，課外活動参加者数，ボランティア活動参加者数，就職状況，起業事例，学生卒業生調査（満足度），志願者イメージ調査，余暇時間調査，研究・課外活動の受賞数
教員学生関係，交友関係	学生・教員比率，小規模人数による演習等の開講状況，学生卒業生調査，同窓会参加者数，同窓会支部数，ホームカミングデー開催状況，寄付金状況
個性，ひとりひとり，ユニーク	学生卒業生調査，雇用者満足度調査，著名卒業生，学生受賞成果
活気，元気，活発，盛ん，賑やか	学生卒業生調査，課外活動参加者数，ボランティア活動参加者数，学生の諸活動に関する報道数，志願者イメージ調査，雇用者満足度調査，寄付金，同窓会参加者，保護者支援状況，学生起業数，国家試験・資格試験合格状況，学生数，志願者数，同窓会会員数，外国人留学生数，海外研修・留学参加者数
家庭的，アットホーム	少人数演習，就職相談者数，学生相談者数，学生卒業生調査，クラス関係行事，ホームカミングデー参加者数，卒業生からの奨学金給付状況，オフィスアワー利用者数，同窓会参加者数
開放的，枠を超えた	共通教育科目実施状況，他学部授業単位認定制度状況，大学行事参加者数，課外活動参加者数，ボランティア活動参加者数，大学カンパニー学生参加状況，外国人留学生数，外部資金獲得状況
歴史，伝統，建学の精神	卒業生数，同窓会参加者数，同窓会支部数，スポーツ関係記録，寄付金，著名卒業生，研究実績・表彰数，大学に関する報道数，雇用者満足度調査，卒業生調査，卒業生子弟・子女の進学者数
国際性，グローバル，異文化	留学生の派遣・受入，留学プログラム，海外同窓会支部数，海外協定大学数，英語で行う授業数，外国語による研究論文数，国際学会受賞数，外資系企業就職者数，国際系業務者数
独自，独特，独創性	学生卒業生調査，特徴あるカリキュラム，雇用者満足度状況，就職状況，課外活動参加者数，志願者イメージ調査，大学ブランド調査，受賞数，著名な卒業生
あたたかい，ぬくもり	学生卒業生調査，少人数教育授業開講数，ゼミナール開講数，保護者会参加者数，寄付金，就職支援参加者数，学生相談参加者数，同窓会参加状況，卒業生による学生奨学金
ダイバーシティー，多様性	女子学生比率，女性教職員比率，社会的・身体的支援の必要ある学生受け入れ状況，教職員数及びその支援体制，卒業生の活躍（有名人），ダイバーシティに関わる報道数，多様性のある志願者の受験・入学者数，多様性のある学生の就職，生活支援の状況，寄付金額，外部資金受入額，学習・生活支援を必要とする学生・研究者の受入状況，バリアフリー施設の整備状況，留学生の派遣・受入，留学プログラム，海外同窓会支部数，海外協定大学数，英語で行う授業数，外国語による研究論文数，ダイバーシティに関わる教育プログラムと参加者の状況，雇用者満足度調査

ながりかねない懸念もある。大学の多くが自由の校風を標榜するならば，自由という名の没個性ともなる。自由な校風に関わる回顧の中には「当時は大変自由な校風で，表現を変えれば，破天荒な学生生活でした。（私立大学：同窓会長）」という言及もあった。自由だからこそ責任を持って，自分の意思で行動することの必要を自戒する学生や卒業生の話もあった。そうしたこともあってか，校風とあわせて「自主，自発，自律」，「尊重，大切，重要」，「個性，一人ひとり」という言葉（形成要素）も多く語られた。校風として語られる「自由」について，大学はどう理解し，いかに具体的な取り組みに反映して自らの特色とするか。このことはそれぞれ大学の課題となるだろうし，学生，教職員にとっての課題でもある。また自己評価も含めた大学評価にあっても，大学の「特色としての自由」について，これを何から判断し，どう評価するか，重要な視点となる。

校風言及においては「学生」という語彙も多く抽出された。このことは、大学校風が学生という存在と密接に関わっていることの証左である。また「創造、創る、うむ、培う」の語彙も相当数抽出された。これらは、学生が主体的に自学の校風を創造することを激励する中でも使用されていた。同窓会（卒業生）や教育後援会（保護者）からの校風言及も少なくない。それゆえに大学の校風は、学内外の大学全構成員により総合的かつ発展的に醸成・継承あるいは刷新される性質のものとも考えられよう。このことについて、次の言及があったことも是非に加筆しておきたい。すなわち、「日本女子大学が創設以来その精神の上に、絶えず新しさを積み重ねて来た側面が、本学の伝統—校風としてあるのだということを知ってほしいのであります。（私立：日本女子大学ホームページ「歴代学長挨拶」）」

校風の捉え方、感じ方について、その語り手による違いも見られる。学生が語る校風には「感情・状況」類型の要素が多く、卒業生が語る校風はこれに「志向価値・行動規範」類型が加わる。一方、学長・学部長や大学組織が語る校風には「志向価値・行動規範」に加えて「歴史・建学理念」が多く語られる。今後の大学活性化につなげていくためには、大学や学長等側が認識する校風と、学生、卒業生などステークホルダーが語る校風との違いを、大学側は認識しておくことが望まれる。

校風について誰が多く言及する傾向にあるのか、その発言比率をみると、学生（15%）、卒業生（23%）、学長・学部長・理事長（18%）、教員（9%）、大学組織（27%）、同窓会長・後援会長（3%）、高校生・志願者（1%）、その他（4%）であった。つまり大学組織と卒業生が校風について多く言及しており、それらが大学ホームページで記録化されていたという結果は、大学のイメージ形成や社会的評価において、卒業生の重要性を示す指標ともなろう。その一方で、教員が校風を語る比率は低い。これをどう理解するか。その大学を母校とする教員が少ないのか。あるいは教員は大学そのものの校風やイメージ形成に関心が低いのか。今後の検証課題である。大学設置種別による校風言及の発信比率割合は、国立大学18%、公立大学9%、私立大学73%だった。発信比率が高い私学は、校風に関する意識が強いといえよう。なお、今回抽出作業をふまえたあくまで印象論ではあるが、一般的イメージが明確・具体的な大学は、学生や卒業生が校風について語る事例数も多かった。

## (2) 今後の課題として

本稿が関わる科研費研究の「学術的問い」では、「校風はどの大学にもあり、教職員、学生、卒業生達によって可塑的に醸成・継承される」という仮説的課題を設定しており、その検証に取り組んでいるところである。このことについて、今回調査をふまえてその一部が明らかになってきたが、さらに2023年以降、全国大学及びアンケート調査、インタビュー調査の実施を予定している（脚注9参照）。また、「時代状況に即し、新たな大学評価指標の設定は重要であり、校風はその評価項目たり得る」という問いも設定しており、このことについては今回報告でも「校風形成要素の対極化概観（表6）」、「校風を可視化する指標例（表7）」を提示した。しかし、あくまでこれは試作の段階である。今後のアンケートやインタビュー調査、大学機関別認証評価データの活用により、これらの妥当性・有効性の実証を行うこととする。

## 【謝辞】

本稿は、JSPS科研費22K027051『「大学校風」の指標可視化と大学評価への活用に向けた実証的研究』の助成を受けた研究の一環であり、その途中成果として報告するものです。